

支援センター名	松岡町体験活動・ボランティア活動支援センター
所在地	〒910-1117 福井県吉田郡松岡町神明1-129 (松岡町教育委員会内)
連絡先	Tel 0776-61-2009 Fax 0776-61-2009 ホームページ http://www.town.matsuoka.fukui.jp

事業の概要とポイント

- ①松岡中学校より選択社会の時間での「松岡の古代を再現する」活動についての相談を受け古代米の作り方や縄文土器の作り方を指導できる講師を紹介し、学習を支援した。
- ②吉野小学校PTAより、「親子福祉体験活動」についての相談を受け、町内のボランティア活動グループを紹介し、体験活動の支援をした。
- ③町内各幼稚園で行われている「あそびの中で学べるクラブ活動」で、いろんな分野の多様な年齢層の方との交流活動が展開されるよう、講師の連絡調整を図り、交流活動の支援をした。

関係した学校・団体の名称

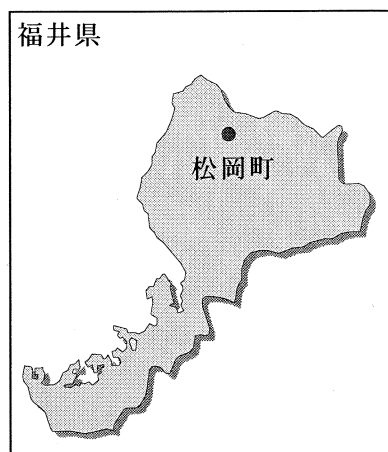
- ①松岡中学校
- ②吉野小学校、吉野小学校育友会
- ③松岡幼稚園、松岡西幼稚園、松岡東幼稚園、なかよし幼稚園、御陵幼稚園、吉野幼稚園

地域の現況・特色

活動対象地域は松岡町全域で、平成16年2月現在の人口は、10,643人である。

松岡町は、福井市の東方約8km、越前平野の東端に位置し、南高北低の地で南北に細長く約9.3km、東西約4.3km、面積18.59km²の小さな町である。南部は三方山にかこまれて足羽郡山町に、東は永平寺町、西は福井市に接している。市街地北部には九頭竜川が流れ、その北には海拔20mの平坦地が続き、丸岡町に接している。

松岡町は、古くから自然環境に恵まれ、松岡古墳群と呼ばれる大小50基の古墳がみられるなど、歴史と文化のまちづくり施策が進められている。また近年、北部地域に2つの大学が立地されるなど、学園の町としての施策も推進されている。特に教育福祉の分野では、全国に先駆けて幼・保一元化



による幼児教育の充実に努め、子育てのしやすいまちづくりに取り組み、大きな成果を上げている。

企画から活動までの経緯

①松岡中学校での古代再現学習の支援

4月10日（木） 松岡中学校から「選択社会科」の活動の相談を受け、古代フェスティバルとのタイアップを提案した。

4月17日（木） 松岡中学校から選択社会科年間計画の提示を受け、縄文土器作りのためには陶芸教室の講師を、古代米作りのためには古代フェスティバル事務担当者をそれぞれ紹介した。

4月18日（金） 陶芸教室と連絡をとり、縄文土器作りの日程などを調節した。また、古代フェスティバルの事務局とは、古代米づくりのための活動場所等の連絡をとり、調整を図った。

4月21日（月） 松岡中学校の年間計画に従い、講師の派遣日程を確認した。

②吉野小学校での親子福祉体験活動の支援

1月19日（月） 吉野小学校から福祉体験活動を実施するため講師の派遣の相談を受け、登録人材の紹介をした。

1月28日（水） 講師の選択、体験活動の日程を相談する。活動内容を以下のように決める。

- ・低学年「目の不自由な人の困っている事を学習する」
- ・中学年「聴覚障害者との触れ合いを通して手話・コミュニケーション・援助のあり方を学習する」
- ・高学年「点字体験を通して視覚障害者への理解を深める」

2月 3日（火） 今回の福祉体験活動の趣旨を理解してもらうため、直接講師と打ち合わせをした。（当日の活動内容等）

③町内幼稚園・幼児園での「あそびの中で学べるクラブ活動」への支援

平成12年度 ・松岡町内の人材を活用した保育として、地域の方を外部講師とした「あそびの中で学べるクラブ活動」の実践が始まる。

平成13年度 ・「えいごで遊ぼう」「サッカー教室」「お茶教室」「和太鼓教室」などの活動が16名の講師の指導によって行われた。

平成14年度 ・クラブ活動の数も12から24に増え、いろいろな分野での講師が必要になり、人材バンク登録者を増やす必要がでてきた。

平成15年度 ・学習支援人材バンク登録数も増え、38人の講師によるクラブ活動を展開した。

事例の展開内容（特色など）

①松岡中学校での古代再現学習の支援

中学校の選択社会科のなかで、「古代再現」についての学習を以下のように進めた。

- | | | |
|----------------|-----------|-------------|
| ・松岡古墳群の見学・発掘体験 | ・勾玉作りの実習 | ・縄文土器作り |
| ・古代米の田植え | ・縄文土器の素焼き | ・縄文土器の野焼き |
| ・古代米の稲刈り | ・古代米の加工 | ・文化祭での古代米炊飯 |

古代フェスティバル当日には、自分たちで作った縄文土器を使い、自分たちが栽培して舂すりした古代米を多くの人に試食してもらった。古代フェスティバル実行委員会の田植えに参加して、地域の社会人との交流も体験できた。古代フェスティバル本番では、中学生が実行委員会に参加して、最後まで運営に携わった。

②吉野小学校での親子福祉体験活動の支援

低学年福祉体験活動

- ・アイマスクを身につけて日常生活のいろいろな場面を体験することによって、目が不自由な人の困っている点や不安に気づくことができる。
- ・目の不自由な人たちにどのような援助をすると良いかを体験し、身近なところから実践しようとする気持ちを育てる。

中学年福祉体験活動

- ・手話について、興味・関心を持つ。
- ・簡単な手話を使って遊ぶ中で、聴覚に障害のある人たちとのコミュニケーションのとり方を学習する。
- ・聴覚に障害のある人達に自分たちでできる援助は何かという気持ちを育てる。

高学年福祉体験活動

- ・自分の名前を打つなどの点字体験を通して、身近にある点字の表示に気づき、視覚障害者への理解を深める。

③町内幼稚園・幼児園での「あそびの中で学べるクラブ活動」への支援

園名	学習支援人材バンク登録者による活動		
	活動名	派遣講師の人数	特色
松岡幼稚園	えいごであそぼう 空手であそぼう しぜんだいすき サッカー教室	5名	クラブ活動は技を身につけることが目的でなく、日頃体験する機会の少ないあそびを楽しむための活動としている
吉野幼稚園	たのしい知恵袋 自然だいすき おはなしでてこい しゅわっちタイム サッカー教室	6名	聴覚障害者指導による活動は、子どもの集中力を向上させ、相互の信頼関係が保育の効果をあげている
松岡東幼児園	たのしい運動遊び サッカー教室 生け花活動・盆点前	3名	園の花壇作りや、花瓶の製作なども含めた生け花活動は、美しさに対する感性も養われている

松岡西幼稚園	絵画・造形教室 サッカー教室 音楽だいすき 自然教室	4名	本物の楽器を使い、 指導者と子どもとが 一緒になって音楽会 を開催している
御陵幼稚園	和太鼓 サッカー教室 手で話そう 音楽で遊ぼう	14名	大学生によるサッカ ー指導は、お兄さん ・お姉さんにあこが れの気持ちを持つな ど、楽しさいっぱい の中で行われている
なかよし幼稚園	お茶教室 日本舞踊 サッカー教室 農芸	6名	近隣地区の高齢者指 導による米づくりの 活動は、1年間の計画 が立てられ、作物の 生長を経過を追って 楽しむ

企画・活動する上でのポイント、留意点など

①松岡中学校での古代再現学習の支援

中学生とはいえ、田植えや稲刈りの作業は難しいもので、指導者はたくさん必要である。やり方が理解できない生徒は中途半端に作業を終えてしまい、かえって迷惑にもなりかねない。縄文土器作りは陶芸教室の講師にお願いしているが、講師の先生も他の焼き物とのかねあいがあり、早いうちに打ち合わせして作業時期を決めることが大切である。学校では、限られた時間内での活動となるので、移動も含め、入念に事前打ち合わせと準備をしておくことが大切である。

②吉野小学校での親子福祉体験活動の支援

- ・福祉体験活動は、初めて体験する活動であるため、適切な指導者を選ぶことが大切である。聴覚障害者の指導者には手話通訳の配慮をした。
- ・視覚障害の体験活動は、見えないことの恐怖から危険が伴うこともあるので、安全面の配慮から、ホームヘルパーを2名配置した。
- ・点字体験は点字でしか読むことのできない視覚障害者への思いが切実に体験できるため、5年生・6年生と2回体験できる体制とした。
- ・地域には青少年育成に関心があって、学校教育のために自分の体験・技能・能力を活かしたいという人材がたくさんいる。このような人材を活用し本物の体験活動ができるよう、学校との連携をより深めながら学習の企画立案を推進することが大切である。

③町内幼稚園・幼児園での「あそびの中で学べるクラブ活動」への支援

- ・あそびの中で学べるクラブ活動は、継続性がある活動を選択し、活動に広がりをもてるような運営が大切である。例えば、生け花活動に保護者へも参加を促すことで家でも取り組んでみたり、日本舞踊の練習成果を近くの老人ホーム慰問で披露したりなど、園内の活動が家庭へ地域へと広がるのが期待できる。

評 価

①松岡中学校での古代再現学習の支援

古代フェスティバルで活躍する中学生の生き生きした姿が、印象に残る。一連の活動が相互に関係しあっているのだからわかりやすいし、自分が作った土器で炊飯するというのは、格別の味がするらしい。古代フェスティバル実行委員会の反省会でも中学生達の活躍は評価を受けており、中学生の体験・奉仕する姿が町民の目にも触れ、大変意義のある活動となった。

②吉野小学校での親子福祉体験活動の支援

- ・低学年では、福祉に対する興味関心が高まり、障害を持つ方に対して何かできることはないか、考える良い機会となった。
- ・中学年では、聴覚障害者から言葉としての手話を学習する中で、人と人とのコミュニケーションは、信頼関係を築く事であると学んだ。
- ・高学年福祉体験では、視覚に障害がある人にとって、点字はいろいろな事を知る大切な方法であるとの理解が深まった。
- ・「福祉体験を経験した子とそうでない子では大人になってやさしさが違ってくるものだ。」と、研修会で聞いたことがある。対人関係が薄れがちな現代社会にあって、これらの福祉体験は重要な学習となってくる。継続は力なりで今後もこのような機会を支援していきたい。

③町内幼稚園・幼児園での「あそびの中で学べるクラブ活動」への支援

- ・地域の方は、自分の持っている力を子どもたちに伝えたいという意志が強く、1時間半の活動の計画・実践は真剣そのものである。子どもたちも幼児教育とは違った新鮮味があるのか、活動に対して興味関心が高い。
- ・子ども達が町で講師に出会うと、「先生」、「監督」などと尊敬の言葉が出るなど、徐々にではあるが地域ぐるみで子どもを育てようという環境が整いつつあるようだ。今後も地域の人材を積極的に園の活動に活用してもらい、子どもの豊かな成長への支援を図りたいと考える。

